事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる　心豊かな国創り

ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety
Vol.88
編集・発行人　篠田伸夫
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103－0001
東京都中央区日本橋小伝馬町
15－18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640
北海道支部　〒004－0015　札幌市厚別区下野幌テクノパーク２－１－14　電話(011)899-3275　ＦＡＸ(011)899-3276
東北支部　〒981－0904　仙台市青葉区旭ヶ丘１-43-16（えんどう豆Ａ館103号）　電話(022)301-5280　ＦＡＸ(022)301-5285
関東支部　〒103－0001　東京都中央区日本橋小伝馬町15－18（日本橋ＳＫビル５Ｆ）　電話(03)3639-1571　ＦＡＸ(03)3639-3980
北信越支部　〒950－0923　新潟市姥ヶ山6-5-26（白木ビル2-B）　電話(025)257-0066　ＦＡＸ(025)257-0067
中部支部　〒457-8535　名古屋市南区浜田町1-10　２Ｆ　電話(052)614-0701　ＦＡＸ(052)614-0705
近畿支部　〒550－0006　大阪市西区江之子島１－６－8（シャンピア阿波座1003号）　電話(06)6443-5213　ＦＡＸ(06)6443-5214
中国支部　〒730－0016　広島市中区幟町3－55（幟町ゼネラルビル6Ｆ）　電話(082)511-2051　ＦＡＸ(082)227-2720
四国支部　〒769－2101　香川県さぬき市志度1883-１（大河原ビル202）　電話(087)814-2245　ＦＡＸ(087)814-2246
九州支部　〒811－2101　福岡県糟屋郡宇美町大字宇美字古野ノ口3426-9　電話(092)957-0032　ＦＡＸ(092)957-0033
ホームページhttp://www.kasetsuanzen.or.jp/　Ｅメールinfo@kasetsuanzen.or.jp　各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

「全国仮設安全大会 in 大阪」開催

大会スローガン

「建設職人社会を救え!!」
「社会に問う!!　労災墜落死亡者2638人」
「なくせ!!　格差社会の究極の影」

足場の安全性確保の義務化に関する決議

一　足場の全段に先行型二段手すり及びつま先板（幅木）を設置することを義務化する
一　有資格の第三者によるチェックリストに基づく足場（支保工を含む）の安全点検を法律で義務化すること

「建設職人社会を救え!!」「社会に問う!!　労災墜落死亡者2638人」「なくせ!!　格差社会の究極の影」のスローガンのもと、11月16日、当組合は、箕面市の関西電力総合運動場体育館において近畿支部主催による「全国仮設安全大会ｉｎ大阪」を開催しました。大会には、国会議員・行政機関の幹部・建設関係者・組合員・一般市民ら654人が参加、高所からの墜落・転落災害防止措置による死亡災害の撲滅を期し、「足場の全段に先行型二段手すりとつま先板（幅木）」の設置および「有資格の第三者によるチェックリストに基づく足場（支保工を含む）の安全点検」の法制化を国に要請する決議を全会一致で採択し、本格的な活動を展開することをいたしました。

式典では藤井正光近畿支部長および小野辰雄理事長が「今回の大会の狙いはわれわれ職人の思いを全国に発信するものだ。高所作業は戦場である。われわれは、ハード面とソフト面での義務化をするために法制化を望んでいる」と挨拶をし、福田康夫内閣総理大臣のメッセージも寄せられ、篠田伸夫専務理事が読み上げました。この後、各来賓からごあいさつを賜り、安全にかかわるメッセージを頂きました。最後に、米原篤近畿支部副支部長が大会決議と実行運動方針について賛同を呼び掛け、満場一致で決議が採択されました。

第二部からは、西川きよし氏による「福祉はわが家から」と題した特別講演が行われました。講演前に西川きよし氏も、墜落・転落公開実証実験を見学し、小野理事長からの説明を受け、先行型二段手すりとつま先板の重要性への認識を高められていました。

このほか、機材展示場では、「手すり先行工法に基づく働きやすい安心感のある足場」や養生機材、保安用品なども展示しました。今回は従来以上に一般からの参加者も多く、成功裏に完了した大会となりました。

安全大会へのお祝いメッセージ

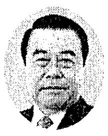
内閣総理大臣
福田　康夫

貴組合におかれましては、平成12年の発足以来、仮設に起因する労働災害の撲滅を目指して、各般の取り組みを精力的に展開されておられます。貴組合の理事長を始め、役員各位、会員の皆さまのご尽力に敬意を表します。

高所からの墜落事故は減少傾向にあり、これは貴組合を始め関係者のご努力の賜であると存じます。しかしながら、事態は依然深刻であり、その解消に向け、行政と民間が密に連携を図りながら、効果的な対策を講じていくことがなにより有益と考えております。

本日の大会を契機に、貴組合におかれましては、法令順守を徹底することはもとより、高所作業における安全対策をより一層充実されますことを心から期待しております。

最後、貴組合並びに本大会を主催されました近畿支部のご発展と本日お集まりの皆さまのご活躍、ご健勝を祈念しまして挨拶といたします。

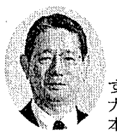


国土交通大臣
冬柴　鉄三

本大会の開催に尽力されました貴組合の小野理事長を始め関係者の皆様に敬意を表します。本日の大会を契機に、貴組合がますます発展され、建設現場の安全対策が一層充実することを期待しております。

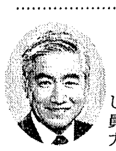
厚生労働大臣
舛添　要一

全国仮設安全大会が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。本大会を機に貴組合のさらなるご隆盛を祈念いたします。



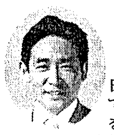
内閣官房長官
町村　信孝

高所作業での安全対策に対する貴組合の熱意とご努力を大変強く思いますとともに、本大会を機に、貴組合が一層連携を強化され、諸事業の展開にご尽力されますことを願ってやみません。



内閣官房副長官
岩城　光英

本大会の開催にあたられました貴組合の理事長始め、役員各位、会員の皆さまのご尽力に敬意を表します。貴組合におかれましては、今後とも結束を強化され、高所作業における安全対策の一層の充実に取り組まれますことを心から期待しております。



参議院議員厚生労働委員長
岩本　司

貴組織におかれましては、日夜、安全対策にご尽力されておりますことに心より敬意を表します。私も厚生労働委員長という立場から、現場で働く皆さまを最大限ご支援させて頂きますことをお約束いたします。

足場の安全性確保の法制化を決議

来賓祝辞　政府や行政機関も絶大な支援の声

衆議院議員
国土交通委員長
竹本　直一氏

ぜひとも建設現場も安全な環境を構築しなければなりません。そして、安全な職場環境の実現こそが国土交通委員長のつとめであると思う次第です。今後、国会でもこの問題を取り上げることを皆さんにお約束します。

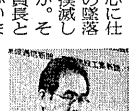
皆さんが安全で安心に仕事が出来、足場からの墜落・転落災害をともに撲滅しようではありませんか。そのために国土交通委員長として頑張りたいと思います。

衆議院議員
国土交通委員
原田　憲治氏

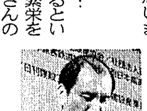
本当に皆さんが虐げられているといえば言いすぎかもしれませんがそうした劣悪な環境で仕事をするということが今の日本の繁栄を支えている。この皆さんの正当な努力が報われなければなりません。人の命よりも尊いものはありません。

私たち国会議員および国土交通委員の重要な使命として、建設現場から労働災害をなくすことにあると気持ちを新たにして、墜落・転落事故がないような社会をつくるために頑張ります。

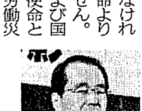
二段手すり・つま先板を義務化した井上章大阪府都市整備部技監



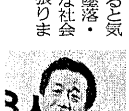
足場に起因する事故ゼロを宣言する松田祐吾農水省近畿農政局整備部次長



労働災害撲滅に意欲を燃やす松下和彦厚労省大阪労働局労働基準部安全課長



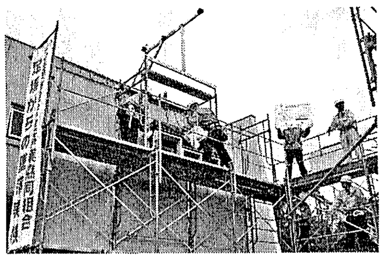
仮設機材のＪＩＳ化にまい進する意向を示す久貝卓経産省近畿経済産業局長



足場の安全点検を民間への普及が必要と語る布村明彦国交省近畿地方整備局長

二段手すりとつま先板が墜落防止に絶大な効果

メッシュシートでは墜落事故は防げないことを実証



墜落防止公開実験

また、大会では、メッシュシートでは墜落災害を防げないことを実証するため、ダミー人形を使って墜落災害防止効果の公開検証実験を行いました＝写真。

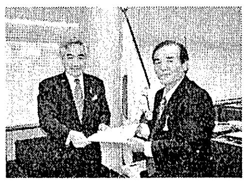
1回目は仮設工業会認定品のメッシュシートと交差筋交いのみを使い、2回目はこれに二段手すりを加え実験しましたが、いずれも足場からすり抜けるような形で、ダミー人形は墜落してしまいました。3回目では、さらにつま先板（幅木）を装備したところ、足場からの墜落を完全に防ぐことが出来、一般紙・専門紙、行政機関・建設関係者654人が見学される中、先行型二段手すりとつま先板（幅木）の絶大な効果が実証されました。同時に、厚生労働省の『手すり先行工法に関するガイドライン』に示す従来のメッシュシートと交差筋交いだけで墜落・転落に効果があるという考えがいかに誤解に基づくものであるかが参加者にも理解されました。

さらに、ダミー人形に安全帯をつけた状態で落下させたところ、荷重がかかり、人形も手すりも「く」の字状態になりました。これが人間であれば、命を落とすか、半身不随になることが実証され、改めて従来の安全帯に頼る文化がいかに危険であるかが証明されました。

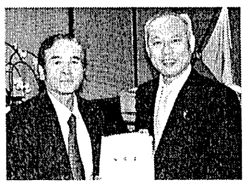
小野理事長(右)から説明を受ける西川きよし氏

高所作業における墜落・転落災害防止措置の義務化等に関する陳情

本組合の小野辰雄理事長は、11月2日、5日、6日および13日の4日間、福田康夫内閣総理大臣ら関係者11人に高所作業における墜落・転落災害防止措置の義務化等に関する陳情を行いました。

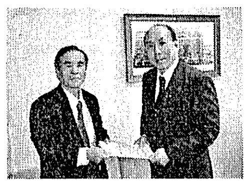


福田康夫内閣総理大臣（岩城光英官房副長官代理）



舛添要一厚生労働大臣

冬柴鉄三国土交通大臣

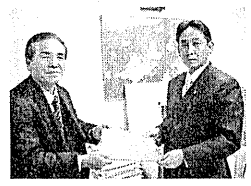


吉村剛太郎参議院自由民主党政策審議会長

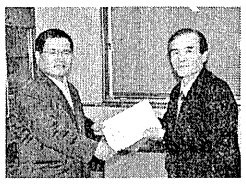
直嶋正行民主党政策調査会長

谷垣禎一自由民主党政務調査会長

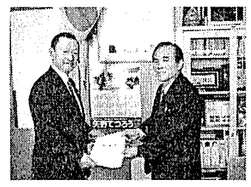
吉田博美参議院国土交通委員会委員長



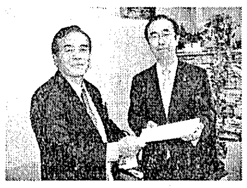
岩本司参議院厚生労働委員会委員長



竹本直一衆議院国土交通委員会委員長



矢野哲朗参議院国民生活・経済に関する調査会会長



渡辺孝男参議院厚生労働委員会理事

「墜落労災110番」大阪、東京に開設

大会前の記者会見では、「墜落労災110番」の開設を発表しました。建設墜落労働災害があれば何でも相談を受け付けることとし、墜落・転落による被災者及びその遺族・親族などからの相談や一般からの情報提供等を受けるためのホットラインを開設し、11月19日から東京と大阪の２カ所で運用を開始しています。

当組合の小野辰雄理事長は記者会見の席上、「被災者らの中にはやむなく示談に応じているケースがあると思われる。事故にあったら一言ホットラインで相談してほしい」と語り、墜落労働災害に遭った方々やそのご遺族の方々に役に立ちたい意向を述べました。墜落にかかる相談や情報提供を受け付け、適宜、行政や政治の場に今後反映させることも考えています。ホットラインは東京・本部（電話03－3639－0641）と大阪・近畿支部（電話06－6443－5213）の２カ所です。開設時間は、月曜日から金曜日の午前９時から午後６時まで受け付けます。

「全国仮設安全大会in 大阪」実行委員（敬称略）

実行委員長
藤井　正光
実行副委員長
米原　篤
宇野　襄夫

実行委員
大仲　孝明
西野　晋治
吉田　栄一
村田　弘司
宮東　良和
矢崎　裕一
中島　一興
福島　正治
辻本　哲之
山田　善徳
室井　秀文
西口　一成
木内　勝也
田村　良一
太田　浩平
吉田　悦治
宮藤　浩
中崎　浩一
中野　孝二
佐古　篤彦
泉尾　貴人
鳳金洋一郎
河野　勝明
藤原　誠二
和田　誠一
永井　謙
藤間　壮吉

資格取得講習会を県の職員も受講へ

シリーズ建設関係部長に聞く⑧

【滋賀県】

滋賀県土木交通部長
吉岡　淳氏

藤井　滋賀県といえば、まず琵琶湖を連想してしまいますが、それだけに水質保全対策には力を入れられているようですね。

吉岡　近畿1,400万人のみなさんの暮らしを支え、豊かな生態系を育む琵琶湖を、私どもでは「マザーレイク」と呼んでいますが、それをお預かりしていることから、環境へのこだわりに配慮しながら建設事業を進めています。

藤井　近畿1,400万人の15年分の生活用水に相当する貯水量ということですが、正に母なる湖という形容どおりですね。

一方で「滋賀県道路整備マスタープラン」の策定に取り組まれるなど道路整備にも力を入れられているようですが、土木交通部での主な事業についてお聞かせ下さい。

吉岡　滋賀県は日本の真ん中に位置しており、古くから近畿・中部・北陸の交通を結ぶ要衝として人や物の往来の中心になっています。また全国で少子高齢化が問題になっていますが、滋賀県はお陰様で2015年まで人口が増え続ける数少ない県でもありますので、そういう意味でも発展を続けていくポテンシャルが多分にあると思っています。それらを踏まえ、土木交通部では「創ります　守ります　滋賀の風土」をスローガンに掲げ、次世代の地域社会を支える交通基盤やその他の社会基盤づくりを推進していくこととしています。08年２月23日には、亀山ジャンクション（ＪＣＴ）～草津田上インターチェンジ（ＩＣ）間の新名神高速道路が供用され、現名神に次ぐ２本目の大動脈の一部が完成することとなりますので、それに関連するＩＣへの接続道路等の工事も進めているところです。

藤井　ところで昨年は大規模な法面崩壊があったようですね。

吉岡　はい。それによって国道367号が高島市で寸断されてしまいました。近畿地方整備局にもご助力頂き仮橋を架けるなどの応急復旧を行い、現在、法面対策の災害復旧工事を進めており、09年３月までに完全復旧したいと考えています。また、この地域を含む琵琶湖西岸断層帯は地震災害の危険性が非常に高いと懸念されていますので、そういった自然災害も含め、あらゆる災害から県民のみなさんの命と生活を守ることを使命とし、安全な県土づくりを推進していきたいと思っています。

藤井　安全な県土づくりのために様々な対策を講じられているようですが、工事の安全対策についてのお取り組みはいかがですか。

吉岡　足場に関しては、05年４月から手すり先行工法を特記仕様書に明記し、普及徹底を図っています。また、06年９月から１億円以上の工事を対象に総合評価方式の試行を始めたところでして、工事の内容にもよりますが技術提案の中で安全配慮についても評価項目を設けています。

藤井　最近では総合評価方式の中でＣＰＤ（継続学習）を取り入れている自治体が多いようですが、貴県ではいかがでしょうか。

吉岡　滋賀県でも技術者のＣＰＤを評価項目として取り入れています。

藤井　当組合ではＣＰＤの学習プログラムとして認定されている仮設安全監理者資格取得講習会を全国各地で開催しております。貴県でも近いうちに開催させて頂きたいと考えておりますので、ぜひ職員の方々にも受講して頂ければと思います。

吉岡　そうですね。ＣＰＤを総合評価方式の評価項目に取り入れているわけですから、県内企業の技術者のみなさんにぜひ受けて頂きたいですね。かなり専門的・実務的な内容だと聞いていますが、県の職員も経験したほうがいいと思います。

藤井　ぜひよろしくお願い致します。貴県の労働災害発生状況についてお聞かせ頂けますでしょうか。

吉岡　ここ３年間の発注工事では労働災害が増え、転落事故も減っていないのです。先日開催された建災防さんの会議では、労働基準監督署の方から県内では墜落・転落による事故が最も多いとの報告があったそうです。そういった現状を考えると、ハード面だけでなくソフト面での安全対策の一層の充実を図る必要があると考えています。

藤井　全産業での労働災害のうち約４割を建設業が占めており、貴県に限らず墜落・転落事故は後を絶ちませんが、建設労働災害防止における部長の理念をお聞かせ下さい。

吉岡　安全対策に「これさえやっておけば」というのはありません。しかし先人の知恵というものがあるわけですから、予見可能なものについては最大限危機を回避できるよう、日頃から当たり前のことを当たり前に積み重ねていくしかないと思います。毎日同じことの繰り返しで徐々に危機意識が薄れてしまいますが、いかにして一人ひとりが安全へのモチベーションを保たせるかということが重要です。また、安全について気になるところがあれば、その現場で協議して改善に取り組んでいけるよう、現場内の風通しを良くしておくことも大切だと思いますし、そのためには発注者側もその意識を持って接していくべきだと考えています。

藤井　最後になりますが、建設業界またはアクセスへのご意見ご要望があればお願い致します。

吉岡　県の発注工事は減少していますが、そんな中でも県内の企業さんには切磋琢磨して施工能力を高めていってもらいたいですね。低入札の問題がありますが、経営体力勝負だけを続けていくという状況は好ましくありません。われわれも発注方法に工夫・改善をさせてもらいますので、経営力と技術力に優れた建設業界になって頂きたいです。

アクセスにおかれては、各県でハード・ソフト面での安全対策の普及に力を入れておられ敬服しています。このような地道な安全活動がこれからも重要になってくると思いますので引き続きお願いしたいと思います。

聞き手＝藤井正光近畿支部長